

# 第5学年1組 特別の教科 道徳学習指導案 〈2日目〉

平成29年2月9日（木）公開授業Ⅱ

平成29年2月10日（金）公開授業Ⅰ

会場 3階-Q

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校  
教諭 舘 仁美

## 1 主題名 それなら、どうする？ — 親切、思いやり —

### 2 本主題の価値

高学年になると、自分や他者を客観的にとらえられるようになってくる。自分の思い込みだけにとらわれることなく、物事を様々な視点から見ることができるようになるのである。この時期に、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのからを多面的・多角的にとらえたうえで、判断できることが重要だと考えられる。なぜなら、判断に迫られたとき、子どもは自分の見方だけで判断をしてしまうことが多いからである。物事や相手を客観的にとらえられるようになった、この時期に他者に対しての親切・思いやりを考えさせる必要がある。多面的・多角的にとらえることで、物事の見方は広がり、よりよい判断はできるようになるはずである。

本主題は、平成27年7月に告示された学習指導要領解説第5学年及び第6学年の内容に準拠して設定したものである。

#### ★中心となる内容項目★

B 主として人との関わりに関すること

##### 【親切、思いやり】

(6)だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること

B 主として人との関わりに関すること

##### 【感謝】

(8)日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること

#### ★関連する内容項目★

A 主として自分自身に関すること

##### 【希望と勇気、努力と強い意志＝夢の実現】

(5)より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと

使用する教材は、私たちの道徳に掲載されている「最後のおくり物」である。教材文の内容は、次の通りである。

#### 【最後のおくり物】

有名な劇団の俳優になることを夢見る、主人公のロベータは貧しく養成所に通うことができない。養成所の守衛のジョルジュじいさんが、秘密で月謝代を送り続けてくれるおかげでロベータは養成所に通うことができる。しかし、あるときから月謝が届かなくなる。ロベータは、そのことを恨みに思う。後に、ジョルジュじいさんが体を壊しながらも月謝代を工面してくれていたことを知る。

ロベータは、月謝代の送り主がジョルジュじいさんであることを知り、看病を名乗り出る。そして、ジョルジュじいさんが息を引き取る間際、お金を送り続けた理由を知る。ロベータは、じいさんの思いを知り、夢の実現に向けて気持ちを新たにす。

本教材は、「親切、思いやり」と「夢の実現」、「感謝」についての道徳的価値が内在している。ジョルジュじいさんは、自分の「夢の実現」をロベータに重ね合わせ、自分が夢を追いかけていたときを思い出す。そして、ロベータの夢という価値に投資をする。身内でもない相手に、「親切、思いやり」をかけるのである。ロベータは、そのようなジョルジュじいさんの気持ちを知り、「恩返しをしたい」という「感謝」の気持ちをもつに違いない。そして、「自分にも何ができることがあるのではないかと」「親切、思いやり」を伝えようとする。最後には、自身の夢の実現に強い意志をもつのである。

本教材は、主人公のロベータとジョルジュじいさんとの感動教材である。感動教材は、登場人物同士の関係や状況から感動を呼び起こし、子どもに道徳的価値の大切さを理解させることができる。しかし、子どもが「本当に大切なのか」「なぜ、大切なのか」まで考えさせることには弱さがある。そこで、私は分割提示をすることで、前半部分の提示では子どもに葛藤を呼び起こす。そして、話し合いをしてから後半部分を知ることで、「親切、思いやり」についての道徳的価値の実感を伴った理解をねらう。このように、本主題は複数の道徳的価値を扱うこと、子どもに考えさせることができるため価値があると考えられる。

### 3 本主題で目指す姿

道徳的価値を多面的・多角的に考えることを通して、これからの自分の生き方について考える子ども

具体的には、「友達と対話することで、今まで考えていなかった「親切、思いやり」について考えることができた。本当の『親切、思いやり』は、見返りを求めるのではなく、相手のことだけを思っていることなのだと思う」、「大切にしたい問いは、『親切、思いやり』はだれのために、

何のためにするのか」。これまで、すぐに親切にしてあげることがよいと思っていた。親切にしてあげることが必ずしもいつもよいとは限らない。相手のことをよく考えて相手の気持ちになることが大切だと思う」と考える姿。

#### 4 本単元で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○「親切、思いやり」についての価値 ○「夢の実現」についての価値	○異なる考え方や感じ方を受け入れ、よりよい解を考える	○道徳的価値のよさを理解し、正しいことをしようとする態度

#### 5 指導の構想

子どもは、ある場面や状況に出合ったときに、これまでの経験から様々な考え方や感じ方をする。それは個々で異なる。子どもは「親切、思いやり」と「夢の実現」について次のように捉えている。

「親切、思いやり」

- ・困っている人がいたら助けてあげることが大切だ。
- ・困っていそうな人がいたら「何か手伝いましょうか」と声を掛けてみるのが大切だ。

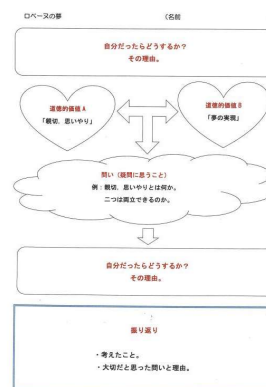
「夢の実現」

- ・夢の実現のために、努力をすることは大切だ。
- ・夢の実現は、自分の力であることが大切だ。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

**働き掛け1**  
教材の前半部分を提示し、自分だったらどうするか、行為と理由を問う。

個々の考えを引き出すための働き掛けである。教材文の前半部分を読み聞かせる。子どもは、主人公ロベータと守衛のジョルジュじいさんの関係を考える。前半部分を聞き終わると、子どもは、「ロベータは、このあとどうしたのだろう。自分だったらどうするだろう」と考える。そこで「自分だったらどうするか」と問い、行為と理由を記述させる。子どもが考える行為と理由には、大切に思う道徳的価値が表れる。ある子どもは、「夢をあきらめたくないから、付き添わない。今ここで諦めたらこれまで応援してくれていたジョルジュじいさんの気持ちを台無しにすることになるから」と「夢の実現」に価値を置く。また、「親切、思いやり」に価値を置く子どもは、「ここまで自分のことを大切にしてくれたじいさんに付き添って、恩返しをする。自分のためにここまでしてくれたのだから、今度は自分があげようと思うから」と考える。記述後、考えを発表させる。子どもは、友達のを聴くことで、教材には二つの道徳的価値があるのではないかと考える。ここで、右図のハートの部分に二つの道徳的価値を記述させる。



【「見いだシート」】

**働き掛け2**  
疑問に思ったことと、理由を問う。

問いをもたせるための働き掛けである。自分の考えをもち、教材には二つの道徳的価値があると考えている子どもに「疑問に思ったことは何ですか」と問う。ここでの疑問は、教材の内容に限らず、自分の経験とかかわらせて考えてもよいこととする。子どもは、場面の状況、教材の内容から想起した経験等、多様な視点から「多面的・多角的にとらえる」という「見方・考え方」を働かせて、疑問を出し、疑問に思った理由を応える(①知識・技能)。疑問が出たら、似ているものや相反するものを黒板で整理していく。疑問を整理することで、子どもが考えたい問いをあぶり出すのである。子どもは「なぜ、ジョルジュじいさんは、月謝を払ったのか」「なぜ、そこまでするのか」とジョルジュじいさんの思いを考える。これらの疑問には、「親切、思いやり」についての道徳的価値が内包されている。疑問の中には、「ジョルジュじいさんには、家族はいるのか」「なぜ、知らないふりをしたのか」等、教材の後半を知れば解決するような疑問も出る。

**働き掛け3**  
『「親切、思いやり」は、本当に大切なことなのか』と問う。

対話を通して「親切、思いやり」についての考えを深めさせるための働き掛けである。多様な疑問を抱いている子どもに教材の後半部分を提示する。本質的な疑問を残すためである。教材文の内容を知ることによって解決する疑問がある。これについては、学級全体で確認する。そして、

子どもは、「付き添うか」「付き添わないか」つまり「親切、思いやり」と「夢の実現」で迷う。これまでの学習で子どもは、「夢の実現」は何よりも大切だと考えている。しかし、今回の教材では、「夢よりもジョルジュじいさんに付き添うことが大切だ」と考えるのである。この違いは、自分の夢よりも、相手への恩返しや思いを伝えることが重要だととらえているところにある。

そこで、「夢の実現」についての大切さを確認した後に、『親切、思いやり』は、本当に大切なことなのか」と問う。子どもが優先すべきだと考えている「親切、思いやり」について話し合わせるためである。話し合いは、グループ(1グループ11人程度)で話し合わせる。子どもは、「コミュニティーボール」を使って、自分が思うことや、これまでの経験を話す。

「コミュニティーボール」は、対話の象徴であり、ボールを持っている人が話をする事ができる。聴いてもらえているという安心感と、最後まで話ができる環境を保障するものでもある。グループごとに、次のような観点で話が進むと考える。

- ・親切、思いやりという言葉の意味から考える。
- ・これまでの経験を通して考える。
- ・親切、思いやりは、だれのためにあるのか、自分と相手の関係から考える。

対話を通して、これまで考えていた「親切、思いやり」の考え方が広がったり深まったりする(協働性)。このような対話をする事で、子どもは「自分が考えていることも大切だ。友達が言っていることも大切にしたい」と両立指向で考えることができる。対話の後には、各グループでどのように話が進んでいったか、振り返りをする。それぞれが、どのような視点で話し合いをしたか知ることができるのである。ほかのグループで話し合ったことを聴いて、子どもは「親切、思いやり」について両立指向での「**多面的・多角的にとらえる**」という「**見方・考え方**」を働かせて、異なる考え方や感じ方をけ入れ、よりよい解を考える(②**思考力・判断力・表現力**)。



【コミュニティーボール】

#### 働き掛け4

教材の後半部分を提示し、自分だったらどうするか、行為と理由を問う。

最終的な考えをもたせるための働き掛けである。働き掛け1で問うた部分に戻り、再度「自分だったらどうするか」と、行為と理由を問う。子どもは、「**多面的・多角的にとらえる**」という「**見方・考え方**」を働かせて、対話したこと(自分とは異なる友達の考え)を基に、最終的な自分の考えを導き出す(②**思考力・判断力・表現力**)。行為は変わらない場合も、理由には「親切、思いやり」についての内容が加わり変容する。対話を通して、考えたことや学んだことが加わるのである。

#### 働き掛け5

「親切、思いやり」について、考えたことや大切に思った問いと理由を記述させる。

資質・能力が発揮したことを自覚させるための働き掛けである。

一連の学習で考えたこと、大切に思った問いと、理由を問う。子どもは、学習を通して、どのようなことを考えたり、自分にとって何が大切な問いなのかを考えたりする。「友達と対話することで、今まで考えていなかった「親切、思いやり」について考えることができる(協働性)。本場の『親切、思いやり』は、見返りを求めるのではなく、相手のことだけを思っていることなのだと思う(③**態度**)」「大切にしたい問いは、『親切、思いやり』はだれのために、何のためにするのか」。これまで、すぐに親切にしてあげることがよいと思っていた。親切にしてあげることが必ずしもいつもよいとは限らない。相手のことをよく考えて相手の気持ちになることが大切だと思う(①**知識・技能**、②**思考力・判断力・表現力**)」と振り返り、**道徳的価値を多面的・多角的に考えることを通して、これからの自分の生き方について考える子どもになる。**

## 6 指導計画 全2時間(6Q)

別紙「単元カード」参照

## 7 本時の構想<第2日目> 2/2時間(45分授業)

### (1) 本時のねらい (本時 2/2時間目)

『親切、思いやり』は、本当に大切なことなの」という問いに対して、友達と対話を通して考えを深め、よりよい判断をすることができる。

### (2) 展開

学習活動と子どもの姿	教師の働き掛け
<p>1 『『親切、思いやり』は、本当に大切なことなのか』についてグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの疑問が出たけれど、ジョルジュじいさんについてのことが多かったな。</li> <li>・ジョルジュじいさんには、家族はいないのか。</li> </ul>	<p>※1グループ11人のグループごとに円になって座る。(椅子のみ)</p> <p>○指示「昨日、みんなで疑問に思ったことを出し合いましたね。今日は、始めにお話の続きを紹介します」</p>

- ・体調を壊したから、届かなくなったんだな。
- ・ロベーターのことを思って月謝を払っていたのか。

- ・「親切、思いやり」は、大切だよ。だって、優しくされると嬉しいし、優しくすると気持ちがいいからです。
- ・大切です。大切でないはずがないです。

【親切、思いやりという言葉の意味から考える】

- ・相手のことを思ってすることが親切だと思います。
- ・相手のことを思ってすることが全て親切になるとは限らないよ。
- ・前に、そういうことを経験したよ。
- ・【「親切、思いやり」をこれまでの経験を通して考える】
- ・親切にしたことはありますか。
- ・バスや電車で、お年寄りに席を譲ったことがあります。
- ・声を掛けるときって、結構勇気がいらすよね。
- ・私は、言わなくちゃって思うけれど、なかなか言えません。

★特別の教科道徳②思考力・判断力・表現力  
★協働性

## 2 話し合ったことを基に、自分だったらどうするか考える。

【看病します】

- ・もし、ここで看病をしなかったら後悔すると思うから、気持ちをあげておれなくて、居ても立っても居られないので、看病をしななければ絶対に大丈夫です。

★特別の教科道徳②思考力・判断力・表現力

## 3 考えたことを振り返る。

- ・友達と対話することで、今まで考えていなかったことが「親切、思いやり」について思いやることができ、見返りを求めず、相手のことを考えてやることを思っています。

★特別の教科道徳②思考力・判断力・表現力  
★協働性

- ・大切にしたい問いは、「『親切、思いやり』はだれのために、何のためにするのか」です。これまで、すぐに親切にしてあげることがよいかと思いましたが、必ずしもいいと思いません。相手とのやり取りが大切で、お互いに大切にしたいです。

★特別の教科道徳③態度

- ※「付き添う」＝「親切、思いやり」
- ※「付かない」＝「夢の実現」で迷っていることを確認する。
- ※子どもは、「夢の実現」よりも恩人であるジョルジュに付き添うことを重要だと考えていることを確認する。

○発問「『親切、思いやり』は、本当に大切なことなのですか」

【働き掛け3】

- ※1グループ11人で話し合いをする。話し合うとき、「コミュニティーボール」を使う。

※話し合いの主なルール

- ・「コミュニティーボール」を持っている人だけが話すことができる。
- ・お互いに問いを投げかけ合うことが大切。
- ・知識に頼らず、自分の思ったことを自分の経験などに即して、自分の言葉で話す。
- ・話がまとまらなくてもいい。

※話し合う時間は、15分から20分とする。

○発問「振り返りをしましょう。グループでどのような話がありましたか」

※各グループ、1人か2人が自グループでの話し合いを全体の前で発表する。

○説明「話し合ったことを基に、もう一度聞きます」

○発問「自分がロベーターだったらどうしますか」

【働き掛け4】

- ※「見いだシート」に記述させる。（前日と同様のシートに書く）

※数名を指名し、発表させる。

○発問「『親切、思いやり』について、考えたことや大切に思った問いと理由を書きましょう」

【働き掛け5】

※「見いだシート」に記述させる。

## (3) 評価

自分と異なる考えを聞き、よりよい判断をすることができたか。

(よりよい判断：働き掛け1と比較し、理由の中で道徳的価値のとらえや見方が強化されたり、付加されたりしているか)